

# 院内処方での 医療費削減は？

町長

順次対応している

加藤 紀之 議員



院内処方の充実を期待

【加藤】ジェネリック医薬品の普及率が、国の平均と比べて低い。診療所での院内処方を早めるべきではないか。

【町長】6月定例会後に診療所医師と協議し、代替可能なものは院内処方でも順次対応している。

【加藤】国の試算を参考にすると、平成29年度末までに目標を達成すれば、本町でも約7000万円の医療費

削減になるが。

【町長】ジェネリックの利用が増えるよう、啓発にも努める。

【加藤】6月定例会の答弁であった、ジェネリックの保管スペースがないというのは、言い訳にならないのではないか。

【町長】医師も含めて、精一杯の対応をしている。とはいえ、いつそのジェネリックへの対応は進めていく。

## 地区会議の今後は？

町長

自主的に課題解決に取り組む

遠藤 幸子 議員



地域での救命訓練

【遠藤】まちづくり地区会議は、住民に十分理解されているか。また、今後のまちづくりで期待することは。

【町長】地域のコミュニティ活動の維持・継続が困難になりつつある。集落や自治会単位では対応できない部分をカバーするためのシステムとして、旧小学校区を単位にまちづくりの取り組みを進めてきた。高麗地区では、「ふ

れあいの郷かあら山」が設立した。ほかの9地区では、まちづくり地区会議を設置し、防災・清掃活動など、各地域の課題解決の取り組みが行われている。継続することによって、行政からも課題を提案し、検討もする。

今後、行政だけでなく、地域でできる部分は、地域自主組織が受け皿となることも期待する機能のひとつである。